

## (4) 蕨岡小学校

学 校 長 石川 真紀  
校内研代表者 舛谷 浩美

1. 研究主題 「自らの考えを持ち、共に高め合う子どもの育成」  
－聞く・話す・書く活動のある授業を通して－

### 2. 主題設定の理由

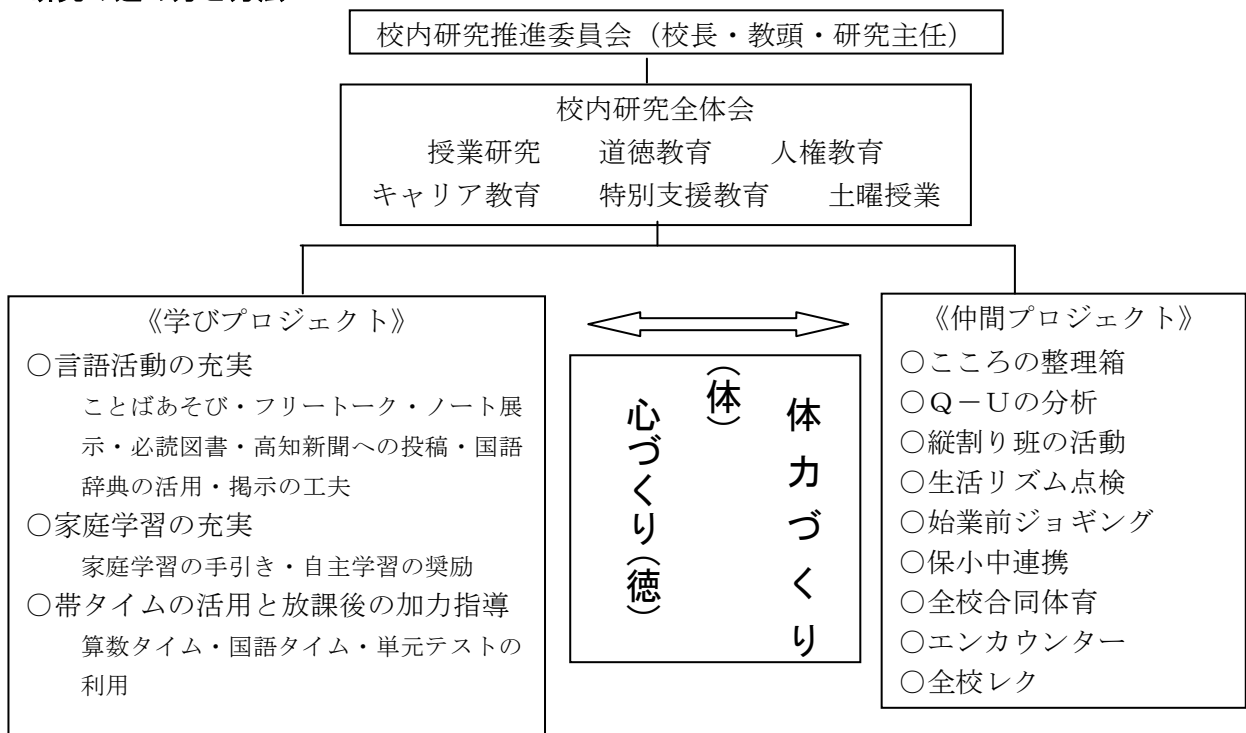
「自らの考えを持ち、共に高め合う子どもの育成」という研究テーマに沿って、完全複式授業の中で、目標の達成に向けて取り組んできた。

昨年度の実践の結果、複式授業の中でも児童が中心となり自分たちで進めていく場面も増え、教師主導の授業スタイルは少なくなった。そして、児童は学級または学校全体の中で意欲的に発表したり関わっていきこうしたりする姿が多く見られるようになった。教師も授業スタイルの統一により、めあてやまとめの提示や板書から、その授業での目標が明確になり、1時間完結の授業が定着するようになった。

しかし、自分の思いが十分伝えることができにくかったり、他の意見を取り入れ自分の考えと比較したり広げたりすることが課題となっている児童もいる。また、自分の思いを書くことに苦手意識を持つ児童もみられる。

そのような実態をふまえ、「主体的・対話的で深い学び」に近づくためには、共通理解のもとに授業公開をし、改善を進めることを研究の第一にした。複式のデメリットをメリットと考え、鍛える授業を仕組みとともに、基礎学力の定着を図るために個に応じた対応を設定していきたい。そのために、高知大学附属小学校の複式担当の先生方に来ていただき、指導助言をもらう。また、他者との関わりの中で個々の違いを意識したコミュニケーションや集団での関わりを大切にしていくために、道徳や人権、キャリアなどの視点からも取り組んでいきたい。そのような取組から自然にあいさつができ、自分の意見が言える力が身につく、他の意見を聞きそれを基に自分の考えを確かにしていく児童の姿をめざしたい。

### 3. 研究の進め方と方法



## 4. 具体的な取り組み

### 【授業での共通認識】

- ・黒板に「めあて、思考過程、まとめ・ふりかえり」がある授業
- ・児童の思考を深める展開になっている授業
- ・1時間の中に「話し合う活動」「書く活動」がある授業
- ・問いから振り返りまでの1時間完結になっている授業

### 【めざす授業の共有化】

- ・全学級研究授業（年間3回）。教科は国語 or 算数と外国語 or 道徳 or 人権
- ・研究授業は事前研究（校内研究全体会での教材研究と指導案検討）を行い、研究授業、事後研究には指導主事を招聘し授業改善につなげる。
- ・授業参観の視点（・児童が主体的に授業を進めていたか・児童が自分の考えを発表やノートにあらわしていたか・板書のめあてとまとめはつながっていたか・1時間で完結した授業になっていたか）を設定しておき、それを基に協議を行う。
- ・授業力チェックシート（年間2回）による授業の数値化と分析・改善。
- ・外部講師（高知大学附属小学校）からの学び。

#### （1）日々の授業を高める取り組み

- ・めあては問いがある2文で作成した。2文目を児童に考えさせたり、国語・算数以外の教科でも同じようにめあてを提示したりして、本時のまとめにつなげた。
- ・間接指導を工夫し、話し合う活動、書く活動のある時間を確保するようにした。
- ・単元計画を立てて、ICT活用やキャリア教育の視点を入れるようにした。
- ・自立活動（特別支援学級）においては、研究授業では指導主事を招聘し、またサポート事業を活用して特別支援学校の先生にアドバイスをもらい、今後に生かすようにした。

#### （2）授業を支えるための取り組み ー学びプロジェクトー

##### ① ことばあそび・フリートーク

- ・年間4回のことばあそびでは、ことわざ、国語辞典、百人一首についての学習を進め、語彙を豊富にしていく取り組みにつなげた。国語辞典を全員に持たせ、授業でも活用している。
- ・年間3回のフリートークはテーマに沿って自分の意見を発表し、意見交換をしていく。問いの答えの後に必ず反応を返すようにした。

##### ② ノート展示

- ・全校で学期に1回行っていった。多目的ホールにノートを展示し、全員が評価をする。1人3個のおはじきで学級ごとに投票をし、上位6人を展示した。
- ・学級での場合は全員のノートを展示して、同学年の中の頑張りを紹介した。

##### ③ 掲示の工夫

- ・学習の足跡やポイントになることがらを掲示板や階段等を利用して掲示した。
- ・重さや長さなど体験活動ができるコーナーを設置した。

##### ④ 家庭学習の充実

- ・低学年から自主学習を位置づける。ノートの最初に自主学習の手引きをはっておき、内容を考える手立てにしている。
- ・テストやプリントの間違いや予習を取り入れるようにした。

##### ⑦ 帯タイムの活用

- ・朝の（火・水・木の一部・金）の算数タイム、昼の国語タイムを活用し、計算や漢字の力をつける。新出漢字は10月末までに終わらせて定着に努める。
- ・学習の習熟や活用問題を行う。単元テストを利用していく。

### (3) 授業を支えるための取り組み ―仲間プロジェクト―

#### ①体力・運動能力の向上

- ・合同体育（水曜日の3校時、年間7回）では、多人数での競技をすることで、楽しみながら取り組めた。
- ・毎日の朝マラソン（7～9月は除く雨天はラジオ体操）を行い、日本一周のカードに記入していている。

#### ②こころの居場所となる温かな学校づくり

- ・縦割り班の活動（学校行事、掃除、児童会主催全校レク、班長による読み聞かせなど）を常時利用して、協力や上級生の役割を身につけていく。
- ・エンカウンター（7月、10月、3月）を実施することによって、休み時間への広がりが見える。
- ・Q-U・学校生活アンケートの分析（Q-Uと学校生活アンケートは2回、ミニQ-Uは3回）から、個々の児童について分析したり、変化をみていたりした。
- ・こころの整理箱（5月、11月、1月、3月）を月初めに行い、児童を知る手立てにした。

#### ③基本的生活習慣の構築

- ・生活リズム点検（月1回）を行い、分析、課題の共有をした。また、学級全体の目標設定をすることによって、気をつけようという意識の向上につなげた。
- ・栄養教諭による「パクパク教室」「食育（お弁当の栄養）」の授業を行い、教科（家庭科）や食への意識を高めた。
- ・高学年へのがん教育の授業から、自分の生活を見つめ直したり、家族との話題に取り上げたりして、健康に対する意識が高まっていった。

#### ④保小中連携

- ・スタートカリキュラムとの関連から1.2年生と年長の授業交流を毎学期行い、入学に備えている。
- ・保育所での各学級の読み聞かせは、園児と関わる機会になり、つながりを深めることができた。
- ・生活リズムチェックを同時に行うとともに、その結果を保育所、中学校に返したり、共通の目標を立てたりすることで、地域全体で生活の向上につなげている。

## 5. 今年度の成果と課題

### 〈成果〉

- ・全学級2回の複式授業（国語または算数）の公開は指導主事との事後研究や数値評価を行うことにより、本校の複式授業スタイルの共通理解や授業力向上につながられた。
- ・高知大附属小学校の先生方による授業や外国語、人権、道徳の授業に指導主事招聘をするなどして、授業方法を学び、本校のテーマに活かすことができた。
- ・学びプロジェクトや仲間プロジェクトが計画に沿って活動を進め、言語活動や仲間づくりの充実が図れた。
- ・保小中が同じ時期に生活点検をすることで、実態が分かり、課題が明らかになった。このカードをすることで、生活に関心を持つようになり改善につながった児童もみられた。
- ・月1回の校内支援委員会にSCも参加してもらい、児童の状況や取り組みを共有できた。

### 〈課題〉

- ・学力面で課題のある児童に対する取り組みを外部の意見をもとに進める必要がある。
- ・学力調査等の分析をもとに、改善を話し合う機会をもったが、その後の変容を共有することを考える。
- ・担当が変わっても引き継げるように、学力や作成した資料のデータ化をしていく。